

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	フェーズフリー（平時と有事をワンセット）な防災企画チーム
まちづくり活動名	日常のまちづくり活動に非常時の共助を合わせ織り込む活動
活動地域	緑区鳴海学区内 上汐田自治会をベース拠点に鳴海駅の周辺エリアで活動
活動の背景	（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。） 鳴海駅周辺は過去に扇川の氾濫で床上浸水を2度も経験し、地域住民の災害への関心は高いが、地震等への防災活動は十分ではない。残念ながら、人は予測不能な地震に対して防災活動を継続できないのである。 そこで、全国の活動を調査する中で、「フェーズフリーという概念、平時と災害時を分けない施策」にヒントを得て、平時の清掃・草刈りやお祭り等のまちづくり活動の取組み方をちょっと工夫し、同時に有事の災害にも備えることができるように活動を企画・実践する事にした。 過去 1、2回目の実績 ・公園の草刈り：LPガス発電機を停電訓練として電動の草刈り機に利用 ・地域の行事：LPガス調理機を炊き出し訓練として子供会、住民に提供 防災かまど、土のう袋の花壇を具体事例として自作し展示 今回 3回目：持続的な活動の仕組みを考慮に入れて企画・実践
目的・目標	（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください。） ■目的 自主防災力の強化を、継続的に進める事は難しい。平常時に定例的に実施している清掃・草刈りや祭礼行事を工夫してワンセットで自主防災活動を継続的に実施することを目的とする。 ■目標 備えない防災「フェーズフリー」の取組みを見てもらい、共感を得た地域住民に浸透して、共助・自助の輪を広げること。 負担にならず、継続的に取り組めることを理解してもらう。 ■成果 清掃・草刈りや住民が集うお祭りや行事の内容に防災的な要素を加味することで、地域の自主防災力の強化を進める事ができ同時に、コロナ禍で途絶えた住民の交流する場を活性化できる
活動内容	（上記の目的、目標に沿って活動内容や実施方法を具体的かつ簡潔にご記入ください） ・2年の経験を活かし、さらに工夫を加えて本活動が継続的に実施できるように「食の楽しみ・作る楽しみ・稼ぐ草刈り」を視点に活動を計画している ① 食の楽しみ：炊出し訓練も兼ねた「たこ焼きパーティ風」のお祭り行事 ・毎年の地域祭礼に炊出し訓練をビルトインする事が持続的実施のミソ 今年は「たこ焼きレシピ」で食を楽しみながら炊出しの実地訓練をする

活 動 内 容	② 作る楽しみ：食材野菜・花苗等のフェーズフリータワーの自作・栽培 ・能登地震のニュースを見て、避難生活では新鮮野菜の提供が大事と学ぶ 食材野菜や鑑賞植物が同時に楽しめる室内栽培タワーを工夫して製作 趣味感覚で楽しみながらコツコツ実行できるので、長続きできる活動 ③ 稼ぐ草刈り：草刈り・剪定の作業を行政等から受託して財源を調達 ・毎月の草刈り経験は定着しており、業者の草刈り作業に匹敵するまで 効率化を進める事を目指す。代替できれば年 6.6 万円収入になり、扇川 の沿道では 3.6 万円の収入になる。必要なら草刈り業務を拡大すること も可能である。マネタイジングが継続な活動に重要な要素と考える。	
活 動 予 定 期	令和 6 年 6 月 ～ 令和 7 年 2 月	
助成金交付申請額	100,000 円	※1 回目（上限 5 万円） ※2 回目、3 回目（上限 10 万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ・能登半島地震が元旦に起こり、各地で地震が続いている。防災の重要性は感じているものの平常時の生活ではすぐ忘れてしまう。人は災害への危機意識を維持する事ができない。 ・コロナ禍で引き籠り生活に慣れ、地域で交流する機会が大幅に減少してしまった。地域で助け合う共助の基盤が弱くなっているのが大きな問題である。昨年より 5 類移行で生活は元に戻りつつあるが、地域コミュニティの取組みを加速する必要がある。 ・当地域の住民は、自主的に通学見守り隊、公園の清掃、草刈りや庭木の剪定等のお手伝いを実施するバラバラの活動は存在していた。また鳴海八幡宮の氏子として山車や神輿祭り等の祭礼行事も面々と受け継がれている。つまり、まちづくり活動の下地は十分にある。 ・日常的に実施しているまちづくり活動にちょっと工夫して、防災面も組み込むことが大事で平時と有事を隔てなくフェーズフリーな視点で取り組むことが持続的な活動に繋がる。 ・自主自立的で地域横断的な活動に助成制度が活用できれば、広報に必要な実施事例ができる本活動の「平時と災害事をワンセットで考える手法」は、自助や共助への応用範囲が広いので当地域を発信源により多くの人に理解や共感を得ることができると考える。	
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ・活動内容は、過去 2 年間の経験を十分に活かして、本活動が継続的に実施できるように「食の楽しみ・作る楽しみ・稼ぐ草刈り」を視点に活動を計画している。 ・フェーズフリーの分かり易い事例として LP ガス発電機を利用して公園の草刈り活動昨年度も毎月実施しており、活動後の交流が大事なコミュニケーションの場になる。	

- ① **食の楽しみ** : みんなで楽しく食べる事は地域コミュニティの大事な要点である。たこ焼きパーティ風にいろいろなレシピを用意して老若男女が集える場を提供する。同時に災害時の炊き出し訓練も兼ねているのが、フェーズフリーの視点である。
- ② **作る楽しみ** : 能登半島地震後の復旧生活で生野菜は大事なことをニュースで知り、今回はレタス等の生野菜と草花を栽培するプラントタワーを作成する。市販品は高価なので、パイプ等を加工して自作する。日常で利用でき、災害時にも生野菜が食べられるので「フェーズフリーな野菜タワー」として家庭で楽しめる。
- ③ **稼ぐ草刈り** : 草刈り活動は毎月実施するので、業者の草刈り作業に代替できる所まで作業実績を上げ、十分な安全対策を講じることで収入源になるように努める。公園や河川堤防に対して、名古屋市の助成制度があるので有効活用できるように努める。今年度は、短時間に効率よく草刈りが実施できるように、自走式の車輪を追加する。
- ・活動内容の資金計画は、費用対効果を考えながら以下の3点に工夫しながら支出する。
 - ① 市販品でも野菜タワーは5万円前後と高価なので、安価なパイプ部員で自作する。
 - ② インターネット・図書館で防災情報をほぼ無料で入手し、必要な書籍のみ購入する。
 - ③ 活動結果を分かりやすい表現方法に留意しながら資料作成し、印刷費の節約に努める。
 - ・本提案を実施するためには、8名程度が適当である。各メンバーの人脈を通じてバックアップしてもらえ人数は50名ほどになる。鳴海駅周辺の自治会が協力先であり、当地域の300世帯程度がモニター先になり妥当である。

審査基準③ 発展性

- ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
- ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか

(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。)

- ・2年間の活動を通じて痛感したのは、辛くても続けるための原動力は「**楽しい**」ことだった。持続の仕組みとして「**食の楽しみ**」と「**作る楽しみ**」をメインフレームに据えた。「食は根源」であり、一人より大勢の方がなぜかおいしい。「創意工夫は人の特権」料理、家庭菜園、DIY工作は非常に楽しいものである。
- ・まちづくり活動の運営資金を確保するため、「**稼ぐ草刈り**」を3番目の柱に据えた。公共施設の草刈り作業への助成金を確保し、企業や個人からの依頼へも拡大して行きたい。
- ・地域のまちづくり活動への波及効果
平時と有事をワンセットで考える「**フェーズフリー**」の取組みに共感する地域住民の輪を広げていくことを狙い、地域行事をちょっと工夫して参加し、理解活動を拡散させて行く。
- ・コロナ禍の影響で自宅にひきこもる生活に慣れてしまった感がある。地域で助け合うという気持ちが薄れつつある。本活動で**他人を思いやる心を忘れないようにまちづくり活動を発展**させていきたい。本活動がヒントとなり、他のまちづくり活動にも影響することを期待している。他との交流の場が刺激になり、より大きな波へと発展することができる。

- 3 活動にあたり他団体(町内会、自治会他)、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
緑区役所 総務課 地域防災担当	地域の防災計画 ハザードマップ等調査
緑政土木局 緑土木事務所	汐田公園、扇川の公園、堤防の草刈り作業
LP ガス事業者、高層ビル、自動車学校等	非常時の施設・避難場所利用の依頼検討

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。

・1 ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2024	4	活動内容の方針検討	「フェーズフリー」を活動方針に、3 回目として具体的に取り組む内容の検討
	5	申請書の作成	スタートアップ部門（3 回目）として申請書をメンバーと協議して作成
	6	助成決定後に キックオフ検討会	年間計画に基づき担当を分け内容の協議
	7	扇川公園・汐田公園 の清掃・草刈り	昨年と同様に LP ガス発電機を活用して地域の扇川公園・汐田公園等の草刈り 雑草が繁茂する 8 月～12 月毎月 1 回実施
	8	野菜・花タワーの製作 （フェーズフリータワー）	生の野菜がフェーズフリーで利用できる 野菜・花タワーをパイプで組み立てる
	9	たこ焼きの炊き出し 訓練の調理実習	炊出し訓練として今年度はたこ焼きパーティ ィ風に実施できるように調理の事前実習
	10	鳴海神社祭礼時に たこ焼きパーティ	子供会のお神輿、地域住民の交流する機会 を利用して炊き出しと防災の展示紹介
	11	野菜・花タワーの栽培 （フェーズフリータワー）	家庭でできるフェーズフリー事例として レタス等の野菜・花タワーで実際に栽培
	12	公園の冬期剪定と 左義長祭りの準備	公園の清掃・草刈りと樹木の剪定作業 左義長祭りの打ち合わせ
2025	1	左義長祭りで広報	公民館前の祭りのどんど焼きに合わせて ぜんざい、焼餅の炊出し訓練と活動広報
	2	活動内容のまとめ →活動実績報告書	2 月末までに、活動実績報告書を提出
	3	次年度以降に向けた 活動計画の策定	次年度以降の持続的な活動計画を立案 中期的な実行計画の検討（財源確保）

備考 用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照	活動項目	内 訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円			100,000
活動経費の内訳	消耗品費	本活動の 検討資料作成	コピー用紙、ファイル、封筒、付箋等 5,000
			印刷用のインクジェットの補給インク 4,000
		草刈り作業備品	軍手、かま、熊手、トング、ほうき等 5,000
		草刈り機改造費	自走式用の車輪、フレーム、固定治具 5,000
		安全防御用具	飛石飛散防止の防御用シート 4,000
		炊出し訓練	紙皿、紙コップ、串、アルミ大皿 5,000
		お祭り等行事	調味料、ごみ袋、カセットボンベ等 4,000
		イベント茶菓子	ピック、粉つぎ、たこ焼き用調理道具 5,000
		神輿に参加した子供への駄菓子	5,000
		野菜タワー製作	野菜タワーを塩ビパイプ、園芸ポット 5,000
		で組立て 接着剤・アルミ線・ペンキ 野菜苗、花苗、液体肥料等	5,000
	印刷製本費	広報活動	
		広報用チラシ	チラシ印刷 300部 13,000
		パネル製作	展示用パネル 5枚 5,000
	物品費	炊出しの調理器	卓上コンロ、たこ焼き用鉄板2ヶ 9,000
			4000円 2500円×2
		活動の電子記録	USBメモリー2ヶ 6,000
			（作成書類用、デジカメ記録用）
	資料費	参考資料の購入	自主防災の参考になる参考図書 12,000
		関連書籍	図書館、ネットで入手できない情報 6冊程度
	使用料 及び賃借料	検討会の会場費	公民館の会場利用代 5,000
			1000円/半日×5回 (7～11月の5回)
	保険料	本活動の草刈り 作業に関する ボランティア保険	500円/回×6回 3,000
			7月～12月 毎月実施で6回 ボランティア活動保険を申請
支出合計			100,000

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。